□第１０期　第２回 外国人市民会議のまとめ

〔日時〕令和５年（2023 年）１２月７日（木曜）　午後２時から午後３時４５分

〔会場〕庄内コラボセンター「ショコラ」２階　会議室２

〔出席者(敬称略)〕

委員：李　ナリ、愼　成埈、孫　岩、張　雅斐、鄭　倩、PHAM　THUY TRANG、黄　少熙
楊　瑜、LAMA　SAROJ、李　霞

事務局：山口人権文化担当理事、堀山市民協働部次長兼人権政策課長、片岡課長補佐、橘田

〔傍聴者数〕3 名

〔会議内容〕

案件１．前回会議の振り返り

→　資料１『第 10 期第 1 回外国人市民会議のまとめ』を用いて、第 10 期のテーマ、今後話し合っていく内容、第 1 回目で出た意見の振り返り。

案件２．保健センターの紹介

→　資料２『令和 5 年度　とよなか子育ち・子育て応援 BOOK「みんなで」』を用いて、おやこ保健課職員による、妊娠届出、新生児訪問、乳幼児健診、発達発育等についての説明。

＜主な意見＞

・委員：母子健康手帳は日本語以外に何語があるのか。

→　市：中国語やハングル、インドネシア、フィリピン、スペイン、タガログ語、英語等がある。母子健康手帳は、小学校に入るまでは医療機関でも使うため、日本語がわかる人は日本語でお願いしている。日本語がわからない人は、母語や第 2 言語を案内している。

・委員：日本語がわからない人が来た場合どのように対応しているのか。

→　市：妊娠届出の時に日本語がわからない人は、日本語ができる人と一緒にこられることが多い。通訳を派遣してもらい説明する場合もある。

・委員：出産育児一時金は 40 万ぐらいでるのか。

→　市：豊中市からではないが、加入している健康保険組合から出産育児一時金が支払われる（現在は 50 万円程度）。

・委員：市からだと思っていたが違うのか。

→　市：市からは、とよなか出産子育て応援金の給付が今年から始まり、妊娠届出後にとよなか出産応援金として子ども 1 人あたり 5 万円、乳児家庭全戸訪問事業時にとよなか子育て

応援金として子ども 1 人あたり 5 万円を給付している。また、豊中市独自支援として、カタログギフト 1 万円相当も給付している。

・委員：自分は豊中市で出産したが、外国人は里帰りして出産するケースが多い。その場合でも出産育児一時金の 40 数万円はもらえるのか。

→　市：加入している健康保険組合から支払われる（現在は 50 万円程度）。ご自身の国で出産した場合、日本の健康保険が効かないため、加入している健康保険組合との相談になる。日本で出産されたときのようなシステムとは変わってくると思う。

・委員：日本で出産経験のある外国人が母国語で子育て経験の助言をする機会があると安心感があると思う。

・委員：外国人からどういった相談が一番多いか。

→　市：豊中に来たばかりの人はどこに何があるか、子どもの病院や、予防接種をいつ受けるかについてよく聞かれる。また、母語でしゃべる遊び場や集まりについても聞かれる。

・委員：周りの人から聞いたが去年はワクチン注射の補助金があり、今年からなくなったがそれもあったほうがいい。

・委員：ワクチンというのは何のワクチンか。

・委員：冬になるためインフルエンザワクチンの補助金がこれからあったらいいと思う。

・委員：子どもは二回打たないといけない。

・委員：去年は補助金が二回あった。来年はどうなるのか。状況によるのか。

・委員：今までは確か補助金がなかった。今年打ったがやはりお金がかかった。家族が 5 人いるが、インフルエンザワクチンで 1 回に 2～3 万円かかる。

→　市：市では高齢者のためのインフルエンザワクチンの補助金を実施している。

・委員：吹田市は子ども医療費助成制度も高校生まで自己負担額が月 1,000 円までになっている。豊中より条件が良いと思う。

→　市：豊中市にも同等の制度はあるが、担当課にこの意見を伝える。

・委員：私の周りで保育園に入れず仕事ができなく生活に困っている人がいる。

・委員：前回も話したが、最近は待機児童が少なくなり状況が良くなってきていると聞いた。

→　市：それについては別の回でこども園などの入園担当課からお話をしてもらう予定。

→　市：豊中市の子ども医療費助成制度について調べたら、500 円の自己負担で医療費助成している。里帰り出産時の国民健康保険出産育児一時金についても、出産後に申請したら支払われる。

・委員：それなら安心して国に帰って出産できる。

・委員：日本ではなんでも問い合わせしないといけないので、ラインなどで困りごとを気軽に聞けるツールがあれば良いなと思う。

・委員：電話も１日中かけても、ずっと話し中で繋がらないためチャット等あればいいと思う。

→　市：市ホームページに問い合わせメールの機能があり、直接担当課に聞くことができる。

・委員：電話は日本語が喋れない人もいるため難しいと思う。

・委員：新生児訪問は生後１ヶ月ぐらいでの訪問なのか。

→　市：基本１か月くらいでの訪問だが、４ヶ月児健康診査に来られるまでの間になる。

・委員：言葉がわからない外国人の自宅に訪問するときは、通訳者が一緒に行くのか。

→　市：通訳者と保健センターのスタッフが一緒に対応する。

・委員：小学校入学までに健康診査が数回あるが早くいかないと混み合う。子どもを連れて順番に検査していくのが大変だった。今は人数を減らしたりしているのか。

→　市：コロナ禍で密を避けるためや、待ち時間を減らすため人数制限をかけるなど工夫しているが、一通り回ると１時間ぐらいかかるため、さらなる工夫をしたい。

・委員：新型コロナワクチンでも韓国の場合は、保健所から時間指定されるため、待ち時間がなく日本とは違う。とにかく待ち時間を減らしてほしい。

・委員：　子どもが病気の時どこに電話をすればいいのかわからない。

→　市：資料の『みんなで』の最後に書いてあるが、緊急で夜間の時は＃3000、救急車呼ぶか、受診について迷った時には＃7119 などが載っている。

・委員：例えばいつでも見られるように母子健康手帳や子どもの健康保険証などに記載があったら活用できると思う。今の母子健康手帳には載っていないのか。

→　市：母子健康手帳の情報ページに記載があり、母子健康手帳を渡す時と健康診査の時に説明している。

・委員：すぐにわかるところに記載があればと思う。

案件３．多文化共生指針の改訂について

→　資料３『多文化共生指針　改訂　概要版』と参考資料３『多文化共生指針　改訂（素案）』を用いて、説明した後、意見交換。

＜主な意見＞

・委員：この案は毎年出しているか。

→　市：平成 26 年に策定し、この 10 年間いろいろな社会状況が変わってきたためそれに対応するために、今年度改訂予定である。

・委員：円滑なコミュニケーション支援として窓口でどういう対策をしているか。

→　市：行政窓口で通訳対応しているほか、行政情報を必要に応じて多言語で情報発信したり、自宅訪問の際に通訳派遣をしている。

・委員：市の職員としてくるのか。

→　市：市の職員ではなく、通訳者は委託をしている。

・委員：とよなか国際交流センター業務のボランティアが通訳をしているのか。

→　市：とよなか国際交流センターではなく、NPO 法人に相談窓口を業務委託して、その一環で通訳派遣している。

・委員：給料が発生するのか私もボランティアで市に登録して小学校に通訳に行ったことがある。

→　市：教育委員会が学校への通訳派遣のため募集登録しているものである。

・委員：1 回登録すれば、ずっと継続だと思っていたが 1 年ごとの登録だった。銀行口座の記入書類などもその都度出さないといけず、申込窓口も分かれているためわかりにくい。もっとわかりやすくしたらたくさんの人が申込むと思うため改善してほしい。

→　市：組織が分かれているが、手続きの簡略化は検討依頼できると思う。

・委員：まずどこで申込するかがわからない。登録先もわかりやすくしてもらえばと思う。

・委員：学校への通訳派遣は時間数が決まっている。校長に聞いても教育委員会で決められた時間があるからこれ以上は難しいと言われた。子どもの能力に合わせて、柔軟に対応してほしい。学校からのプリントも読めずイベントなども把握できていないため、学校からのサポートがほしい。

・委員：韓国語の場合は、土曜日に国際交流センターで教室があるが、中国語などほかの言語もあるのか。

→　市：韓国語の集まりは月に一回ある。中国語とスペイン語は月に 2 回ある。インドネシア語の集いもあったが中止になり、子どもの人数に合わせて行っている。言葉や文化などの遊びを若い人たちが講師になって教えている。

・委員：親同士、情報交換ができるため助かると思う。韓国語の場合は、ハギハッキョ（夏期学校）があるが、ほかの国もそういうものがあるのか。

→　市：韓国語の場合はもともと在日コリアンのための集まりだった。月に 1 回集まるのと、夏休みにキャンプをしたり、自分のルーツについてみんなで話し合うことを目的に行っていた。中国語やスペイン語は 15 年ぐらい続いている。月に 1 回の集まりと、1 年に 1 回多文化フェスティバルで交流会を行う。また、教育委員会が実施している日本語教室では子どもの交流会を年に 1 回やっている。

・委員：多文化共生指針改訂（概要版）を見ると、この 10 年で外国人が増えていることがわかる。国際的なまちになってきているが学校でもう少し外国の文化を教えてほしい。海外の文化についていろいろ疑問に思っている日本人の子どもが多い。学校に行って文化の紹介や料理などの説明がしたい。そうすることで差別やいじめを減らすことが出来ると思う。

・委員：以前は、小学 3 年生から 6 年生対象で週に 1 回、文化など教えていた。日本人はあまり積極的ではないイメージがある。韓国や中国では海外留学に行く人が多いが、日本人は日本だけでいいという考えがあると私は思う。私が講師として小学校で 4 回授業した時も、韓国は近いという説明をしたが、そういう知識が小学校 2、3 年生のときにあるといろんな国に関心を持つと思う。外国人の保護者自身が国や文化の説明をするのがいいが、今はそれがなくなってしまった。

→　市：学校で国の文化を教える授業（小学校外国語体験活動）は 2 年に 1 回、教育委員会が事業者を公募している。

・委員：テレビで見るより実際の国のことを知ることで憧れになる。そうすることでいじめもなくなりいい関係になると思う。もっとそういう機会を増やしてほしい。

・委員：1 回だけ、ベトナム料理を学校の先生に作ったことがあり、ベトナムの音楽や料理等いろいろ準備して、私も楽しんで学校で紹介できた。機会があれば国の文化など紹介したい。

・委員：小学校で自国の文化を教える講師のボランティア募集の窓口も、一般には知られていないためあまり情報が行き渡ってない。通訳も小学校で自国の文化を教えるボランティアも興味を持っている人がいっぱいいると思う。

・委員：それは小学校外国語体験活動になる。小学校では話題を分けて、4 回授業をする。去年、中学校と高校に行ったが中学校と高校と 1 回きりだった。教える内容が多いため、1 回の授業では時間が足らず、授業後子どもたちからの質問が多かった。授業回数を増やしたほうがいいと思う。

・委員：私も行ったことがあるが、小学校で教える 4 回分の授業を 1 回にまとめなければいけない。

・委員：初めて授業をする人は不安だと思う。授業の内容がわからないため、とよなか国際交流センターで模擬授業があればいいと思う。

・委員：とよなか国際交流センターで説明会も含めて 2 回ぐらいやっていたと思うが。

→　市：以前、小学校外国語体験活動を受託していた時はボランティアを集めた後に、2 回ほどセミナーやボランティア前でデモンストレーションをやっていた。今は受託していないためそのプログラムがなく、単発で中学校や高校から依頼があった時に行ってもらってい

る。

・委員：子どもが小学校の時、異文化についての授業があるということを子どもから教えてもらっていた。

・委員：経験者から授業の進め方や、どうしたら子どもたちが楽しんでくれるのかなどがわかれば、初めて学校で授業する人も安心すると思う。

→　市：多文化共生指針を改訂している中で、災害の対応についても追加記載している。災害時に備えてとよなか国際交流センターで外国人のための防災セミナーや、災害時多言語支援センターを設置するための協定書も締結している。今後も外国人の皆さんにも災害に備えていただかないといけないが、何か準備しているか。

・委員：LINE を登録したら豊中市やとよなか国際交流センターから台風情報など随時受けられる。

→　市：他も皆さんはご活用されているのか。

・委員：LINE はよく使うため LINE からのお知らせはすごくいいと思う。文字よりは動画があれば、1 番頭に残って怖さもわかる。また、防災グッズの準備などできていない人もいると思うため、そういうところにもう少し力を入れて教えていただきたい。

→　市：避難所についてはどうか。

・委員：地域の人が小学校の体育館に収まるのかという不安がある。

・委員：防災バックの準備も言葉で説明してもあまり覚えられないため、実際に使って自分で防災グッズを入れる方が記憶に残る。体験型にするべきだと思う。また避難場所もツアーなどすれば避難場所がわかる。

→　市：地域でも避難所まで行くシミュレーションやイベントもあったりするが、それにも参加してもらえるように色々考えていかなければと思う。

・委員：津波が来たらどうしたらいいかわからない。町にも海抜表示があるが、津波について知識が少ないと思う。津波の避難についても実際にどうしたらいいか知りたい。

案件４．庄内コラボセンター「ショコラ」の施設見学

→　資料４『庄内コラボセンター「ショコラ」施設案内パンフレット』を用いて、庄内コラボセンターの職員による施設見学。

案件５．その他

→　参考資料５『外国人市民会議ニューズレター№18』を用いて、ニューズレター完成の報告。次回の会議の日程調整について説明。